

「地域医療構想説明会」（東胆振）

開催日時	平成30年7月12日（木）18:30～19:45
開催場所	苫小牧市医師会館3階講堂
会議次第	
1 開 会	
2 あいさつ	東胆振圏域地域医療構想調整会議会長
3 説 明	
(1)	「地域医療構想に関する国及び道の動き」
(2)	「東胆振の状況」
(3)	その他 「医療機関の勤務環境改善」
4 意見交換等	
5 閉 会	
主 な 意 見	
<p>■ 2025年推計病床と既存病床で大きな差がある。在宅での対応や、慢性期などは圏域外に出ている患者が戻る前提での数値とのことだが、現実的に在宅が進まなかったり、介護に移行しなかった場合、病床が足りなくて患者さんが入院できないようなことにはならないのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>慢性期と回復期は、居住している患者さんはその二次医療圏域で入院するとの前提で算出。難しいのは、東胆振もかなり東西に長い圏域であるため、圏域境に住んでいる方も本当に圏域内となるのかという部分はある、</p> <p>もう一つそれぞれの病床数は病床利用率を仮定して掛けて算出しているが、その病床稼働率で医療機関がやっていけるのかという保証はされていない。</p> <p>また、当圏域のように将来の必要病床数が現在の既存病床数は上回っているが、現在の既存病床数が基準病床数よりも多いという圏域は、国の方針では、毎年基準病床数を計算するとされており、実際、当圏域でも基準病床数は増加した。ただ、その計算をする際に、介護医療院等に転換した分は、今の国の通知では、平成36年3月まで既存病床数に含むこととされているが、毎年基準病床数を計算する場合に、その扱いをどうするかといったところはまだ不明確な状況。</p> <p>実情として病床利用率等を含めて圏域内で先生方の肌感覚として、今後これではやっていけないとなるのか、今の中でもう少し患者さんのまわし方を工夫したらもっとこなせるのかという点については、今後の調整会議、又病院部会等で御意見いただきながら、対応を考えていきたいと思う。</p>	